

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	学校営繕事業						
1-2 担当	部	教育部	課 又は施設	学校教育課	係	庶務係	評価票作成者 庶務担当係長 馬場 秀樹
1-3 総合計画における施策の体系	節	教育文化 「個性ある文化と豊かな人間性を育むまちづくり」			基本施策	義務教育	コード 4 3 1
	項	学校教育			単位施策(中)	学校施設の整備・充実	コード 4 3 1 3
					単位施策(小)	学校施設の整備・充実	コード 4 3 1 3 1
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	市立小中学校(12校)		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	教育内容に応じた学習環境を整備し又、安全・安心な学校生活環境を整備する。		
1-5 事務事業の内容	学習しやすい環境作りと学校施設の安全確保のために、定期及び随時の点検や、営繕工事を行う						

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	学校施設の安全確保のために、定期及び随時の点検を行った。アスベスト調査も行った。	耐震に対する取組み、アスベストへの対応など、安全安心への関心が高まっている。	安全・安心・快適な教育環境整備の充実を求められている。		
平成19年度	18年度と同様に定期・随時の点検を行った。又、アスベストについては浮遊調査を行った。	〃	〃			
平成20年度	定期・随時の点検、アスベストの浮遊調査を行った。またガス配管設備改修工事(栄小・唐竹小)を行った。	〃	〃			
平成21年度	定期・随時の点検、アスベストの浮遊調査及びアスベスト種類が追加された事に伴い、定性分析を行った。またガス配管設備改修工事(三崎小・中央小・豊明中・栄中)を行った。	〃	〃			
平成22年度	定期・随時の点検、アスベストの浮遊調査及び栄小学校、双峰小学校のアスベスト撤去を実施した。					
平成23年度						
平成24年度						
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	点検回数(回)		306(回)	306(回)	消防設備・電気工作物・配膳用エレベーター保守・プールろ過装置等保守点検 前期 年306回 後期 年306回

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a(単 直接事業費 b(千円) 人件費 c(千円) 合計コスト d(b+c) (千円) 単位コスト d/a (千円)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		12(校)	12(校)	12(校)	12(校)	12(校)	12(校)				
30,202	28,858	114,992	117,941	104,427							
1,024	1,024	3,072	3,072	2,976							
31,226	29,882	118,064	121,013	107,403							
1校当たり 2,602	1校当たり 2,490	1校当たり 9,839	1校当たり 10,084	1校当たり 8,950							

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 直接事業費 保守点検等 104,426,800円(修繕料・機械保守委託料・アスベスト調査料・営繕工事費)
人件費 1人3,100円(1時間)×320時間=992,000円×3人=2,976,000

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2-4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(回)	306	306	306	306	306					
	後期目標値に対する達成度(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0					

3 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		A	A	A	A	A					

- 4段階評価結果
- | | | |
|--------------------------------|-------|--------------------------------|
| A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する | 判断の基準 | 必要性(必要な事務事業であるか) |
| B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要 | | 公共性(公が実施する意味があるか) |
| C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要 | | 妥当性(ニーズに対して投入が適正か) |
| D : 事務事業の廃止が相当 | | 効率性(結果に至る活動に無駄はないか) |
| | | 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか) |
| | | 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか) |

3-2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識			次年度に向けて改善する取組み		事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価	
	平成18年度	利用頻度及び耐用年数を的確に掴み、早めの点検、修理を心がける。	安全な学習環境を保つよう定期・随時の点検修繕に努める。	18年度からのアスベスト調査を継続して行う。教室への天井扇を引続き設置する。		プール・エレベータの事故などが他市町であったが、本市においては、日頃の点検等により被害がなかったことが評価できる。	
平成19年度				"			常日頃の学校職員の目視などによる報告で、早い段階に対応をおこなったこと、保守点検等により被害がでなかった。
平成20年度		"		引続きアスベスト調査を行う。		"	
平成21年度		安全な学習環境を保つよう定期・随時の点検修繕に努める。また、保守等は現状を維持しながら、コストダウンに努める。		一層のコストダウンを図っていく。			保守点検等の実施により、安全に努めることができた。
平成22年度		安全な学習環境を保つよう定期・随時の点検修繕に努める。また、保守等は現状を維持しながら、コストダウンに努める。アスベストについては、撤去を進める。					
平成23年度							
平成24年度							
平成25年度							
平成26年度							
平成27年度							

4 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。	
平成19年度	A	継続して事業を進めること。	
平成20年度	A	継続して事業を進めること。	
平成21年度	A	継続して事業を進めること。	
平成22年度	A	継続して事業を進めること。	
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			